



[花き部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

3. リンドウ「岡山RND5号」と「岡山RND6号」は低標高地での栽培適性が高い

[要約]

低標高地でのリンドウ栽培では、遮光により高温障害と欠株が減少する。これに加えて、「岡山RND5号」及び「岡山RND6号」は、遮光下では規格外品の発生率が低く、可販収量も多いことから低標高地での栽培適性が高い品種である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室、高冷地研究室

[連絡先] 電話 086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

リンドウの既存産地では高齢化による生産者の減少が問題となっており、近年は市街地近郊の低標高地での栽培希望者が多い。しかし、これら地域は既存産地に比べ高温であり、リンドウの栽培事例はなく、オリジナルリンドウが栽培可能か明らかでない。そこで、低標高地（赤磐市、標高 23m）でオリジナルリンドウの栽培適性について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 低標高地での栽培では、遮光すると、収穫日が遅くなり、花卉の着色不良である白斑症（以下、白斑）、葉焼けによる規格外品率及び欠株率が低くなる（表1）。
2. 収穫期は高標高地（真庭市蒜山、標高 450m）に比べて、極早生品種は 20 日程度早く、早生品種は 10～20 日程度早く、中生品種は 3 日程度早い又は同時期、晩生品種は同時期であった（データ省略）。
3. 遮光した「岡山RND5号」及び「岡山RND6号」は、早晩性が同じ市販品種に比べて規格外品率が低い（表1）。
4. 「岡山RND5号」及び「岡山RND6号」は、早晩性が同じ市販品種に比べて可販収量が多い（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 赤磐市で令和5年及び6年に畑地露地圃場に畝幅 150 cm、条間 45 cm、株間 15cm で定植した2～3年生株での結果である。
2. 遮光は、地上面から高さ約 2.5mに遮光率 55～60%のダイオネット#810を設置し、令和5年は6月中旬～10月中旬、令和6年は5月中旬～10月上旬、令和7年は5月中旬～9月下旬まで遮光した。
3. 灌水は、毎年の萌芽から切花終了まで2～7回/週、各 10～15 分実施した。施肥は、緩効性肥料（エコロング 140～180 日タイプ）を用い、1年目は窒素 9.2kg/10a、2年目は窒素 11.2kg/10a、3年目は窒素 13kg/10a を施用した。



[具体的データ]

表1 低標高地での遮光の有無が生育に及ぼす影響（令和6年定植、令和7年調査）

早晩性	品種	愛称	遮光 有無	収穫日 (月/日)	規格外品率 ^z (%)	規格外品率内訳 ^y (%)			欠株率 (%)
						白斑	葉焼け	短茎	
極早生	岡山RND4号	-	有	6/26 ns ^x	5 * ^x	0 ns ^x	1 ** ^x	4 ns ^x	5 ** ^w
			無	6/22	24	0	24	0	50
	ながの極早生（市販）	-	有	6/17	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
			無						
早生	No. 47	早生1号	有	7/3 ns	16 *	0 ns	12 **	4 ns	8 **
			無	6/30	38	0	37	1	39
	岡山リンドウ1号	早生2号	有	8/1 **	4 *	0 **	4 **	0 **	7 ns
			無	7/24	30	13	17	4	8
	岡山RND5号	-	有	8/27 *	7 *	2 *	5 **	0 ns	15 ns
			無	8/22	32	12	30	0	21
中生	岡山リンドウ2号	中生	有	9/21 ns	20 **	5 **	14 **	2 ns	5 **
			無	9/14	81	50	65	0	32
	しなの3号（市販）	-	有	9/16	66 -	29 -	49 -	0 -	0 -
			無						
晩生	岡山RND6号	-	有	10/19 ns	20 ns	0 ns	20 **	0 ns	0 ns
			無	10/14	41	0	41	0	4
	深山秋（市販）	-	有	10/16	61 -	0 -	61 -	0 -	5 -
			無						
中生ピンク	岡山リンドウ3号	ピンク 中生1号	有	8/14	71 ns	0 -	71 -	0 -	3 **
			無	-	100	-	(100) ^v	-	43

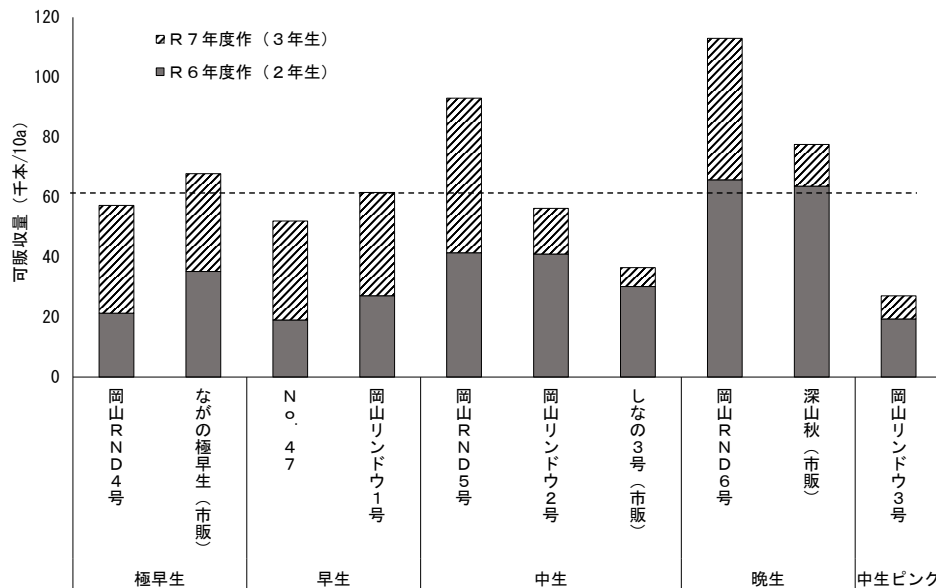
^z 全収穫花茎のうち、白斑、葉焼け及び短茎で規格外とした率^y 白斑：大部分の小花に2～3mmの着色不良が発生又は4mm程度以上の大きさで発生している。葉焼け：半分ほどの葉に1～5mmの発生又は数枚に5mm以上の発生。短茎：本来の開花期より著しく早く草丈が短く開花する又は側枝が主茎より長くなる等草姿が乱れている^x t検定により、*は5%水準で有意差があることを、nsは有意差がないことを示す^w Fisherの正確確率検定により、*は5%水準で、**は1%水準で有意差があることを示す^v 達観により全て規格外とした

図1 低標高地での可販収量（令和5年定植、令和6～7年調査）

注1) 「岡山RND4号」、「No. 47」、「岡山リンドウ3号」は切花長50cm以上、花段数2段以上、その他の品種は切花長60cm以上、花段数3段以上で、表1の基準で規格外でないものを可販とした

注2) 図中の点線は、県栽培指針の目標収量（64千本/10a/2年）を示す

[その他]

研究課題名：オリジナルリンドウの高温耐性の把握

予算区分・研究期間：県単（気候変動対策）・令和6～7年度

研究担当者：林祐貴、金田紗葵、阿部遼

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[令3 \(67-68\)](#)、[令4 \(83-84\)](#)